

【道路建設課所管 再評価審議資料】

○再評価対象箇所一覧表	・・・p 1
再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について	・・・p 2
○令和元年度 再評価実施箇所	
再評価実施箇所（附図）	・・・p 3～4
道路改築事業の整備方針	・・・p 5～6
1)（国）156号 福島バイパス	・・・p 7～13
2)（一）上野関線 大矢田・半道工区	・・・p 15～20

令和元年度 再評価対象箇所一覧表 8月9日審議箇所

[県土整備部 道路建設課]

番号	事業名	路線・地区 ・河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事業概要		全体事業費 (百万円)		実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数 (H31.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の 進捗状況	社会経済情勢 等の変化及び 地域の意向	環境との調 和への配慮 事項	事業費削減	費用対効果 分析	対応方針 (案)	特記事項	
						全体事業量 (km)	事業 実施 事業量 (km)	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等	用地補償費 工事費等												
1	道路改築事業	(国)156号 福島バイパス	白川村	H16	R11	2,345	1,100	5,183 122	2,992 122	58.0% 100.0%	15	道路橋形不良箇 所の改善と、 洗車場の設置 ※運送仕向物に機 能するバイパスの の確保 観光振興へのアク セス性向上	-	東 海 北 陸 自 動 車 道 の 々 車 線 化 が 進 む	-	事業計画の流 入直しに伴う コスト削減	1.2 (1.2)	継続	H26再評 価				
2	道路改築事業	(一)上野関線 大矢田・半道工 区	美濃市	H15	R5	3,000	1,250	3,450 134	1,124 123	33.0% 92.0%	16	※重時に着対に機 能するバイパスの の確保 道路橋形不良箇 所の改善による円 滑な交通の確保 高速道路へのアク セス性向上	-	-	-	盛土材の流 入によるコス ト削減	1.7 (1.4)	継続	H26再評 価				

費用対効果分析：()は前回再評価時の投資効果率

令和元年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名	道路改築事業（社会資本整備総合交付金）	
	事業目的	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。	
	採択基準	地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。	
	概要 (メニュー)	現道拡幅や線形改良等又はバイパスの建設	
○費用対効果の分析について *費用便益 B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> ・費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費 現在価値算出のための社会的割引率：4% 基準年次：評価時点 検討年数：50年間 	
	費用便益比の基準	費用便益比（B/C）1.0以上	

令和元年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔 道路建設課 〕

番 号	2	事 業 名	道路改築事業 （路線・河川名等）	一般国道156号 <small>ふくしま</small> 福島バイパス
事業実施箇所	おのおのぐんしらかわらふくしま 大野郡白川村福島 ～ おのおのぐんしらかわらまき 大野郡白川村牧		事業主体	岐阜県
採択年度	平成16年度	完了予定年度	令和11年度	
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）			
事業目的	<p>一般国道156号は岐阜県岐阜市を起点とし、富山県高岡市へ至る延長約216kmの幹線道路である。当該事業はこのうち大野郡白川村福島から牧までの2,345m区間を整備するものであり、隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通確保、災害時に有効に機能するネットワークの確保、観光施設へのアクセス性向上を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：2,345m 車道幅員：一般部 3.00m×2車線 トンネル部 3.00m×2車線 主要構造物：（仮称）福島第1トンネルL=176m 福島第2トンネルL=234m 福島第3トンネルL=333m 第1橋梁（仮）L=68m</p>			
概 要 図				
	<p>写真①(起点部付近の状況)</p> <p>写真②(福島第3トンネル) 新トンネル (平成22年8月完成) 旧トンネル</p> <p>写真③(終点部付近の状況)</p>			

令和元年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番号	3	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 一般県道 上野関線 (大矢田・半道)
事業実施箇所	美濃市半道地内 ~ 美濃市大矢田地内	事業主体	岐阜県
採択年度	平成15年度	完了予定年度	令和5年度
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業(経過措置)		
事業目的	<p>一般県道上野関線は、美濃市上野を起点とし、関市小瀬に至る延長約11.9kmの路線で、第二次緊急輸送道路に指定される重要な路線である。</p> <p>当該事業はこのうち3km区間について現道拡幅及びバイパスを整備するものであり、災害時に有効に機能するネットワークの確保、隘路・落石箇所の解消による円滑な交通の確保及び東海北陸自動車道美濃ICまでのアクセス向上を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：3,000m 車道幅員：2.75m×2車線、歩道幅員：2.50m(片側)</p> <p>主要構造物：(仮称)新大矢田トンネルL=623m</p>		
概要図			

令和元年度 公共事業再評価について (道路改築事業)

令和元年8月9日

岐阜県 県土整備部 道路建設課



0

道路改築事業の整備方針

考え方

岐阜県では、平成18年度に策定した「県土整備ビジョン」を踏まえつつ、「**活力**」、「**安心・安全**」を**重点目標**とし、道路整備に取り組んでいます。

重点目標

活力

●物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

- ・ 県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進
- ・ 渋滞緩和による円滑な交通の確保
- ・ 観光交流や産業振興の推進
- ・ 高速道路へのアクセス向上

安全・安心

- 災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備
- 地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

- ・ 災害時に有効に機能するネットワークの確保
- ・ 雨量規制区間の解消
- ・ 隘路・線形不良箇所解消による円滑な交通の確保

道路改築事業の整備方針

重点施策(令和元年度)

地域にあふれる魅力と活力づくり

◇物流・観光を支える道路ネットワークの構築

- 東海環状自動車道西回り区間及びICアクセス道路の整備促進
- 東海北陸自動車道四車線化及び中部縦貫自動車道の整備促進
- 濃飛横断自動車道の整備推進
- 地域と地域をつなぐ幹線道路等の整備

※道路建設課が所管する事業に関するものを抜粋

健やかで安らかな地域づくり

◇災害に強い県土づくり

- 水害や土砂災害から命と暮らしを守る基盤整備の推進
- 迅速な復旧に不可欠な道路ネットワークの確保

◇生活を支えるインフラの整備

- 安全・安心な通学路等の整備の推進

※道路建設課が所管する事業に関するものを抜粋

事業再評価 道路改築事業

一般国道156号

ふくしま 福島バイパス

県土整備部 道路建設課
令和元年8月9日



位置図 ①



- 事業区間
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道

(C)岐阜県

位置図 ②

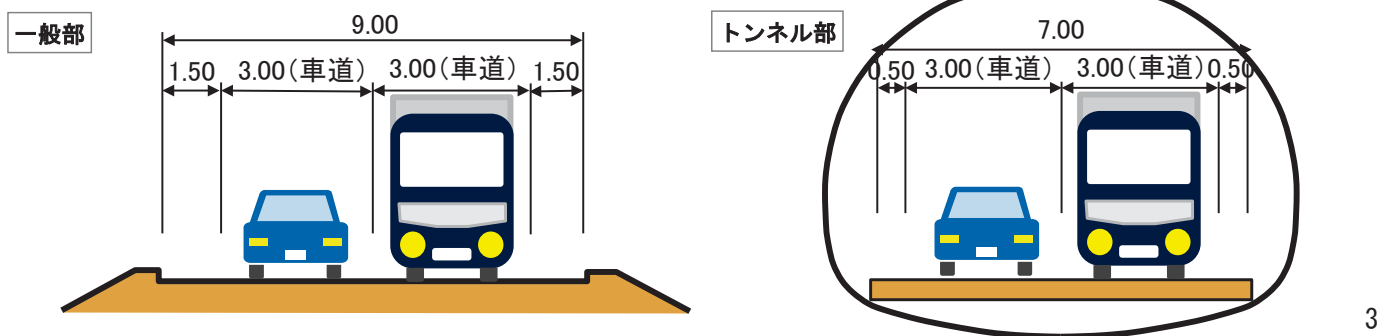


2

事業概要

- おおのぐんしらかわむらふくしま おおのぐんしらかわむらまき
- ◆ 起 終 点 : 大野郡白川村福島～大野郡白川村牧
 - ◆ 全体延長 : 2,345m (トンネル延長L=176m+234m+333m)
 - ◆ 総事業費 : 約52億円
 - ◆ 事業着手 : 平成16年度
 - ◆ 完成予定 : 令和11年度
 - ◆ 幅 員 : 車道 3.0m×2車線
 - ◆ 道路規格 : 第3種第3級

標準横断図

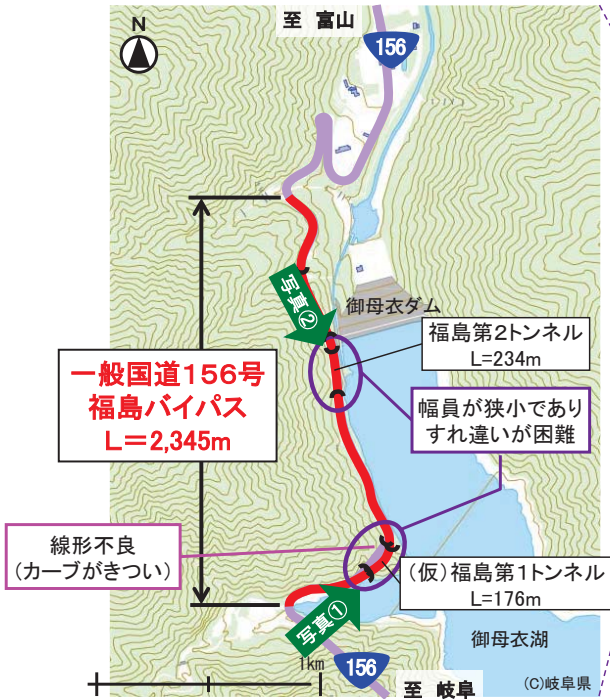


3

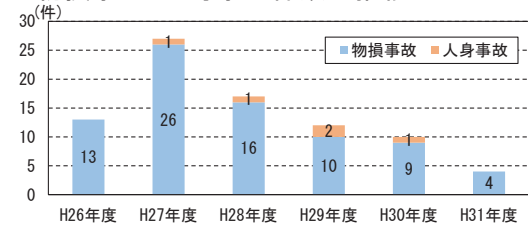
事業の目的①

安全・安心： 隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

■線形不良箇所・トンネル狭小区間の解消により、大型車や危険物搭載車両等の走行性が向上



■物損事故・人身事故件数の推移



事故による破損と思われる箇所

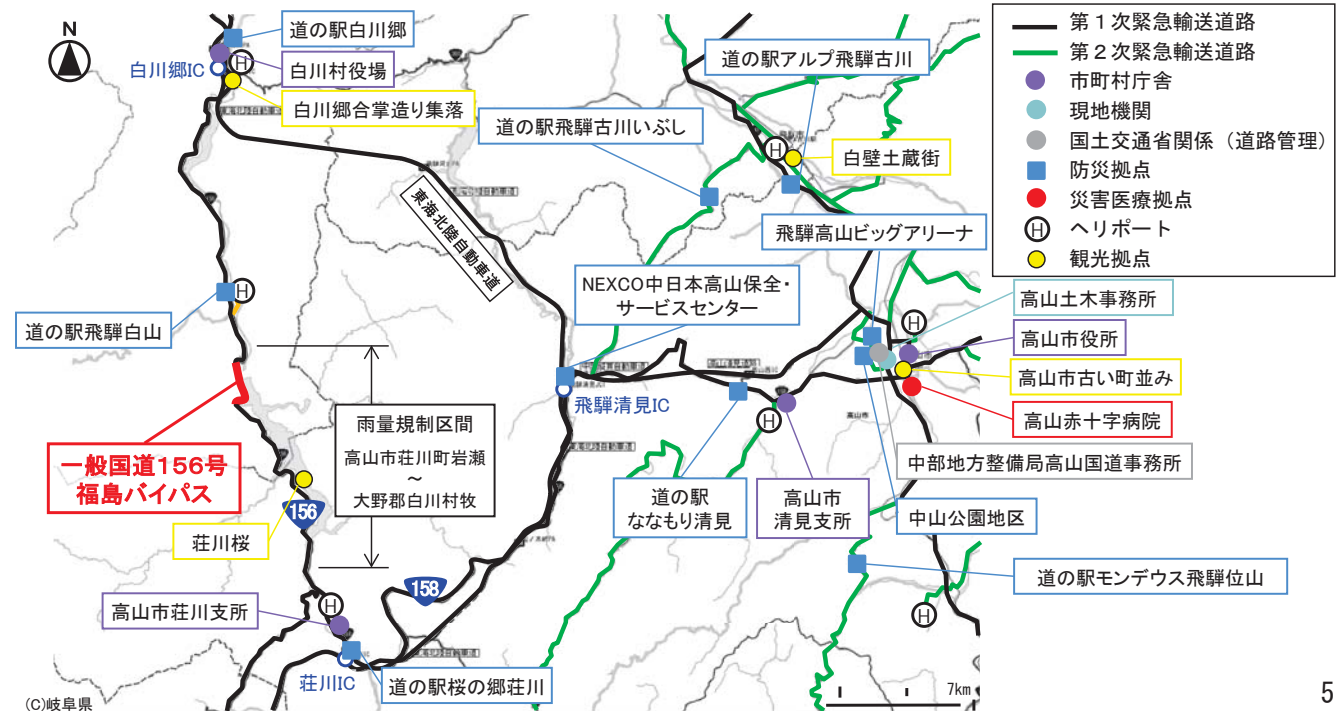


事業の目的②

安全・安心： 災害時に有効に機能するネットワークの確保

■国道156号は第1次緊急輸送道路に指定

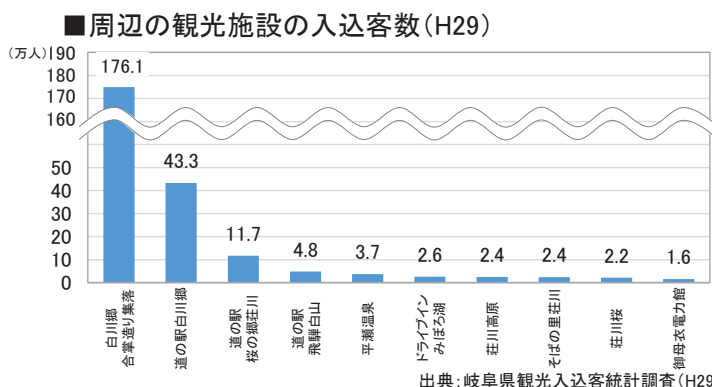
■本区間の整備により緊急輸送道路としての機能向上に寄与



事業の目的③

活力：観光施設へのアクセス性向上

- 荘川桜等多くの観光施設へのアクセス性向上に寄与
- 観光シーズンの交通混雑の解消に寄与



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 **97%**
- 走行経費減少便益 効果全体の約 **3%**
- 交通事故減少便益 効果全体の約 **0%**

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.2 \text{ (全体)}$$

前回再評価時
(H26年度)
1.2 (全体)

※費用便益分析マニュアル (国土交通省H30.2) に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆東海北陸自動車道の4車線化

- 平成31年3月に東海北陸自動車道（白鳥IC～飛騨清見IC）の4車線化が完了し、交通量はより一層増加
- 国道156号は東海北陸自動車道が通行止めの際の迂回路として重要



8

進捗状況

全体進捗率 58%※

用地補償進捗率 100%※

工事進捗率 52%※

(うち用地取得進捗率 100%)

※平成30年度末事業費ベース



9

コスト縮減の取り組み

事業計画の見直しに伴うコスト縮減

■トンネル残土の処理場を変更することによりコスト縮減

当初計画

北部中津屋残土処理場
(L=40km)



20,000m³

◇事業当初
処分費:約1.5億円

H26.4月以降

白川村残土処理場
(L=7km)



20,000m³

◇見直し
処分費:約0.5億円

コスト縮減額:約1億円

10

対応方針(案)

○福島バイパスの整備は、隘路・線形不良箇所
の解消による円滑な交通確保、緊急輸送道路
の確保など、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民、白川村、地元建設促進期成同盟会
等から早期完成・事業促進の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

令和元年度第3回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

【道路事業】 3) 道路改築事業「(国)156号 福島バイパス」

■事業内容

バイパス整備・現道拡幅 延長L=2,345m、幅員W=9.0m

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H26)	(基準年：R1)	
事業期間		H16～R11	H16～R11	
費用 (億円)	事業費	38.8	54.1	
	維持管理費	0.7	0.9	
	合計(C)	39.5	55.0	
効果 (億円)	走行時間短縮便益	44.6	62.7	
	走行経費減少便益	2.4	2.2	
	交通事故減少便益	-0.1	-0.1	
	合計(B)	46.9	64.8	
費用対効果分析結果(B/C)		1.2	1.2	

※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル/国交省道路局 都市局/H30.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・費用を現在価値化する際の基準年が前回の平成26年から令和元年に変更になった。
- ・社会的割引率が4%に設定されているため、基準年次以前(令和元年以前)の事業費が増加することとなる。

【便益】

- ・H30.2に費用便益分析マニュアルの改訂され、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故損失額の計算式が見直された。
- ・H30.2に新たな将来OD表が配布された。
- ・H30.2に交通量配分手法が改訂され、QV式が見直された。

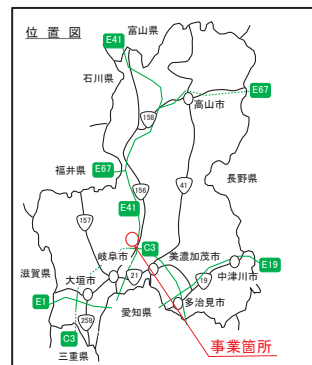
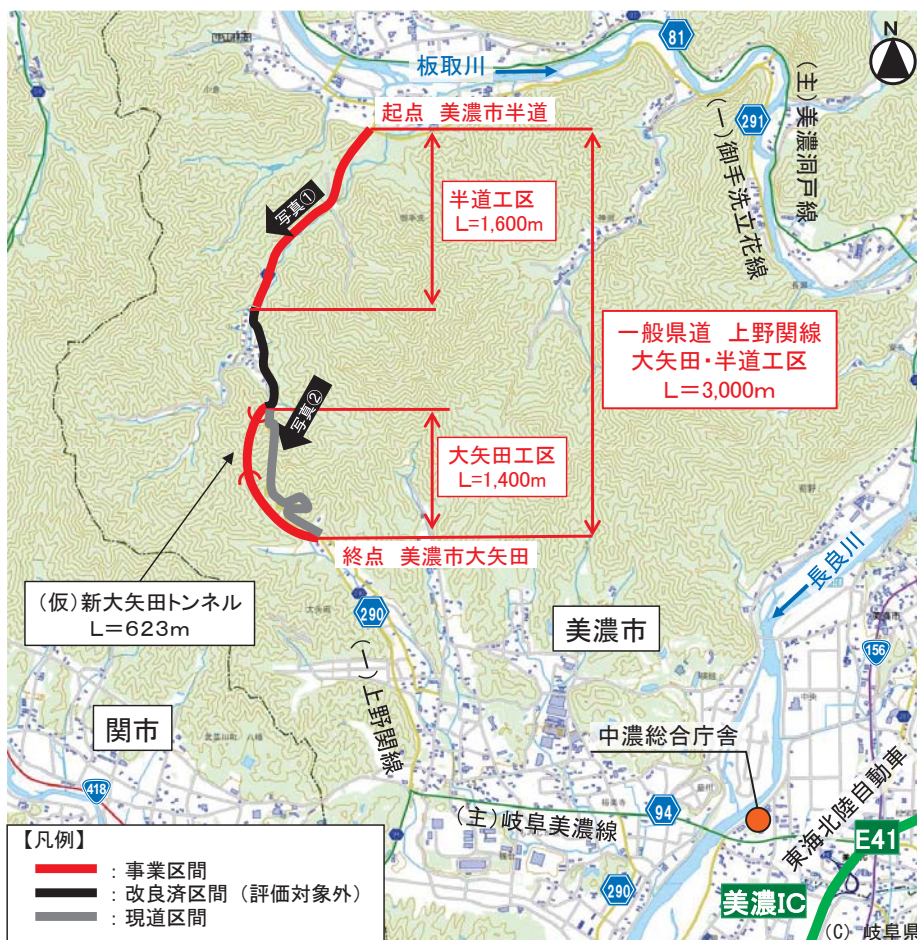
事業再評価 道路改築事業

一般県道 かみのせき 上野関線 おやだ はみち (大矢田・半道)

県土整備部 道路建設課
令和元年8月9日



位置図



写真①:施工前写真(半道工区)

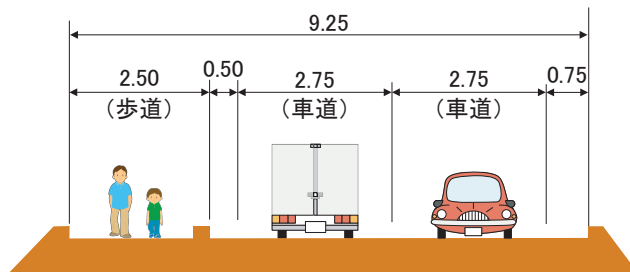


写真②:災害発生写真(大矢田トンネル)



事業概要

- ◆起終点：美濃市半道^{はみち}～大矢田^{おやだ}
- ◆延長：3,000m
- ◆総事業費：約35億円
- ◆事業着手：平成15年度
- ◆完成予定：令和5年度
- ◆幅員：車道 2.75m×2車線
歩道 2.50m (片側)
- ◆道路規格：第3種第4級
- ◆標準横断図



2

事業の目的①

安全・安心：災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 一般県道上野関線は第二次緊急輸送道路に指定
- 関市北部地域と関市・美濃市中心部を連絡する緊急輸送道路の信頼性を強化
- 関市北部地域から第2次・第3次救急医療施設までのアクセス性を向上

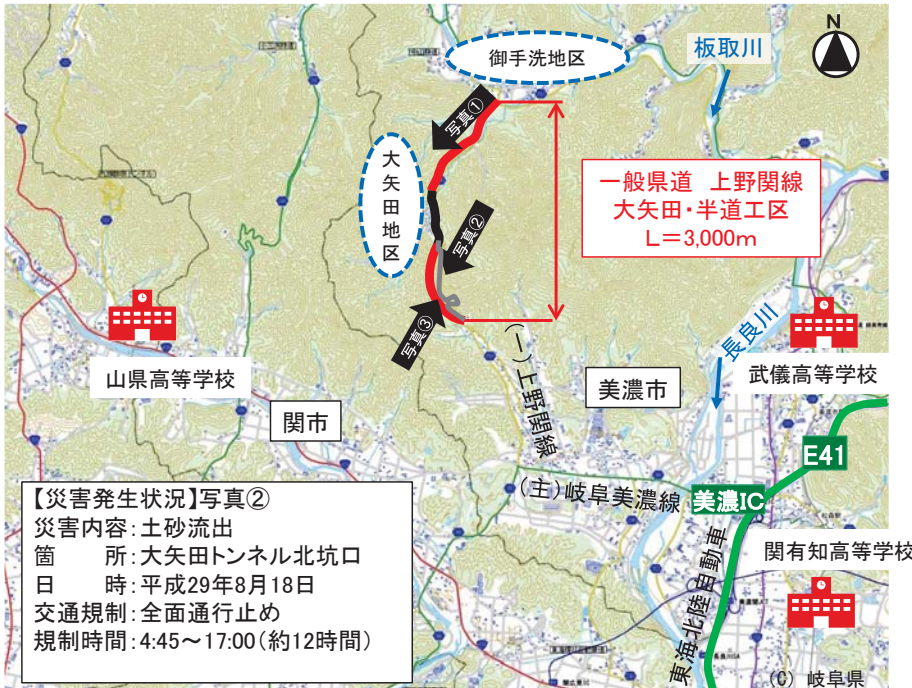


3

事業の目的②

安全・安心：隘路・落石危険箇所解消による円滑な交通の確保

- 狹隘区間の解消により、走行性を向上
- 落石等危険箇所の回避により、安全性を確保
- 歩道の設置により、歩行者・自転車の安全・安心な歩行空間を確保



写真①：狹隘区間でのすれ違い状況



写真②：災害発生状況



写真③：高校生の通学状況

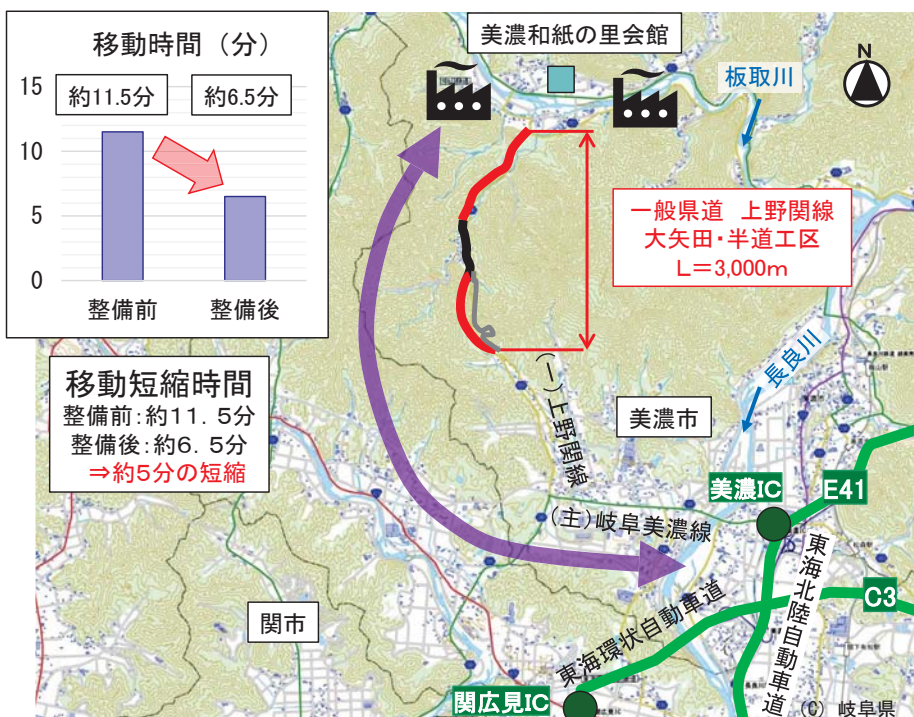


4

事業の目的③

活力：東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセス向上

- 御手洗地区から東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセスを向上
- 工場や観光地へのアクセス性を高め、物流・観光交流の促進により地域活性化に資する



写真：美濃和紙の里会館



写真：大型車の通行状況



写真：大型車の通行状況



5

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 **94%**
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 **5%**
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 **1%**

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.7$$

[前回再評価時
(H26年度)
1.4]

※費用便益分析マニュアル (H30 (2018) .2 国土交通省) に基づき算出

6

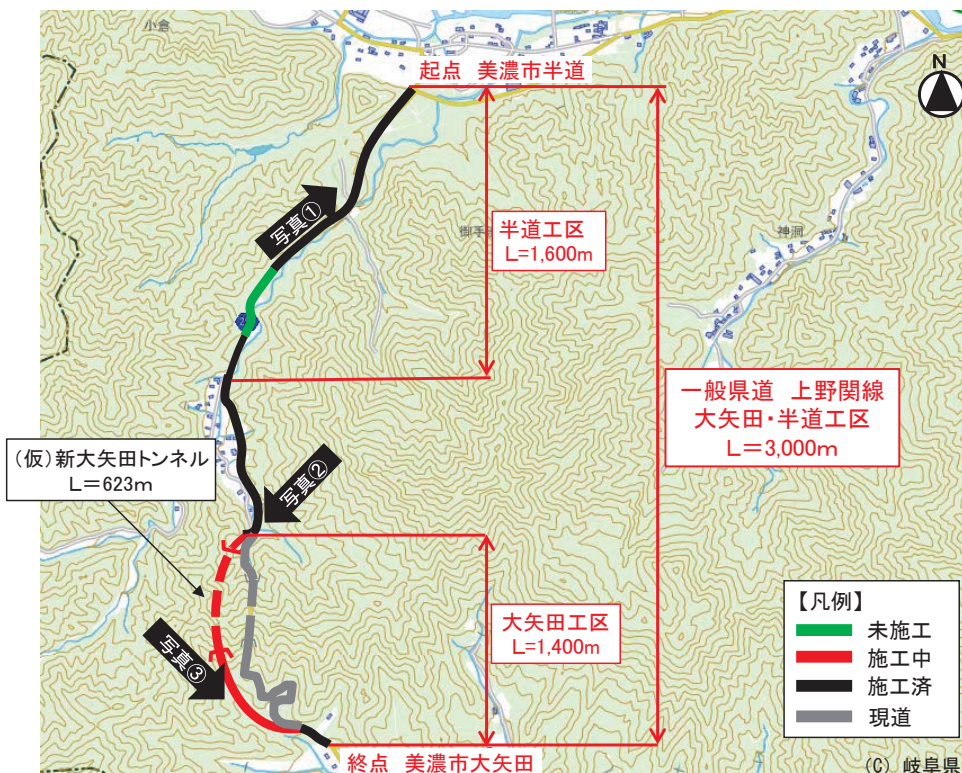
進捗状況

全体進捗率33%

用地補償進捗率92%

工事進捗率26%

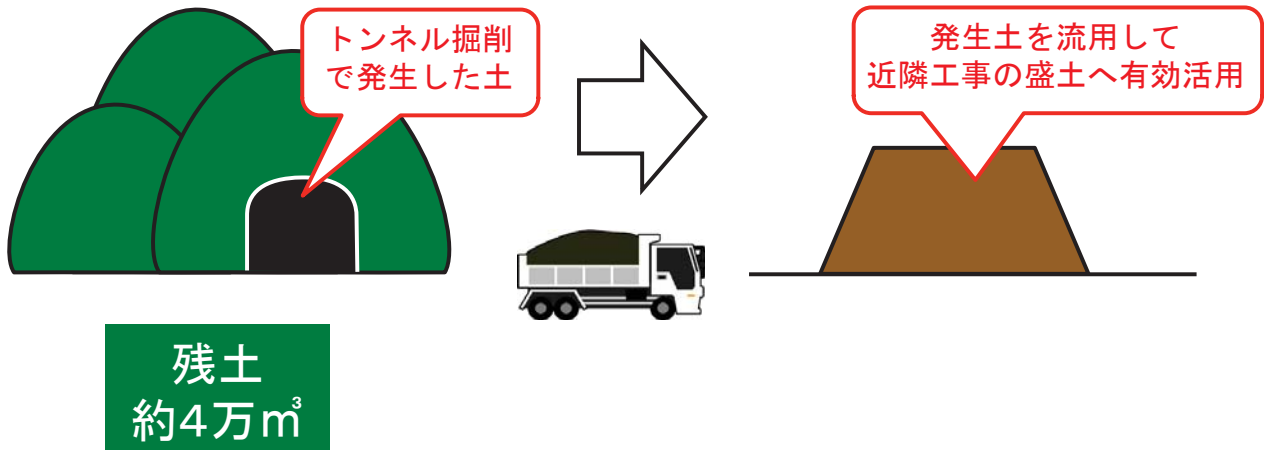
※ 平成30年度末事業費ベース



コスト削減の取り組み

◆盛土材の流用によるコスト削減

■トンネル工事で発生する土砂V=約40,000m³を近隣の公共事業の盛土部に有効利用することにより、残土処分費約9千万円を削減



約9千万円のコスト削減

8

対応方針(案)

○一般県道上野関線大矢田・半道工区の整備は、災害時に有効に機能するネットワークの確保、隘路・落石危険箇所への解消による円滑な交通の確保及び東海北陸自動車道美濃ICへのアクセス向上に寄与する。

○関係自治体や期成同盟会から早期完成・事業促進の要望がある。



＝供用へ向け、事業継続＝

令和元年度第3回
岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料

■事業名

【道路事業】 3) 道路改築事業「(一)上野関線 大矢田・半道工区」

■事業内容

バイパス整備・現道拡幅 延長L=3,000m、幅員W=9.25m

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H26)	(基準年：R1)	
事業期間		H15～R5	H15～R5	
費用 (億円)	事業費	26.5	33.3	
	維持管理費	0.8	0.8	
	合計(C)	27.2	34.2	
効果 (億円)	走行時間短縮便益	36.7	54.6	
	走行経費減少便益	1.9	3.3	
	交通事故減少便益	0.0	0.1	
	合計(B)	38.7	58.0	
費用対効果分析結果(B/C)		1.4	1.7	

※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル/国交省道路局 都市局/H30.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・費用を現在価値化する際の基準年が前回の平成26年から令和元年に変更になった。
- ・社会的割引率が4%に設定されているため、基準年次以前の事業費が増加することとなる。

【便益】

- ・H30.2に費用便益分析マニュアルが改訂され、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故減少便益の原単位が見直された。
- ・H30.2に新たな将来OD表が配布され、事業箇所周辺的美濃市及び関市の発生集中交通量が約2割増加したため、便益が増加した。